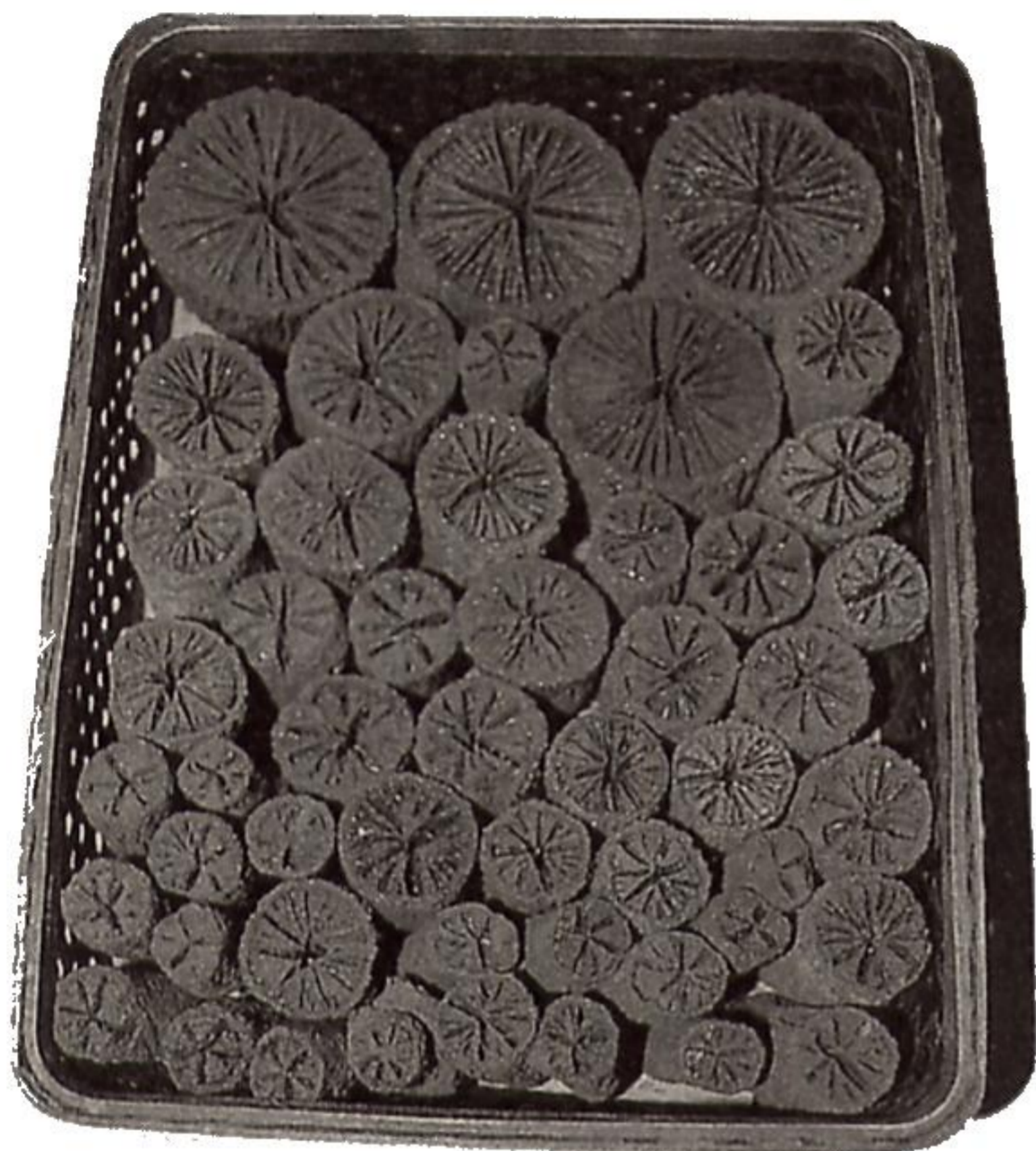


# 利休も愛用 特産「池田炭」

# 保護へクヌギ 林整備

茶の湯に珍重される高級炭「池田炭」を保護しようと、能勢町が、原料となるクヌギ林の整備に乗り出す。山林の荒廃で品質のいいクヌギは手に入りにくく、炭の生産量は減る一方といい、同町は「山林を復活させ、特産品を守りたい」としている。

池田炭は、府内の能勢、豊られ、全国に出荷されたため、した切り口から「菊炭」とも呼ばれ、千利休も愛用したと伝わる。府北部農と緑の総合事務所池田分室によると、両町での年間生産量は明治後期には約1550トに上ったが、9ト(2006年推計)



菊の花のような模様が特徴の池田炭

## 能勢町、今夏から事業

に激減しているという。池田炭に使うには、幹を切って作った「台場」から芽を出して7、8年のクヌギ(直径約10センチ)が適しているときされる。能勢町では、山林約7700ヘクタールの5%にあたる約385ヘクタールがクヌギだが、国などによる整備補助金の対象は建築材として使われるスギやヒノキが中心で、ほとんどが放置されているのが現状だ。

このため、同町は今夏、山林所有者から許可を得て、約5ヘクタールで植林や手入れなどをする方針。事業費は約400万円。所有者は育ったクヌギを販売できる。

池田炭に使われるクヌギ(能勢町で)



同町で池田炭を焼いている小谷義隆さん(45)は「輸送コストがかからないよう、窯になるべく近い場所でクヌギを手に入れたいが、条件のいい山は少ない。品質のいいクヌギが手に入りやすくなるのはありがたい」と歓迎している。